

短報 Short Report

広島県におけるウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama (ラン科) の新産地

世羅徹哉

A new locality of *Lecanorchis kiusiana* Tuyama (Orchidaceae) in Hiroshima Prefecture, Japan

Tetsuya Sera

摘要

広島県内で3ヶ所目となるウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama の生育地を確認した。この場所の植生環境は、これまでに報告されている広島県内2ヶ所の生育地とは異なっていた。

Summary

A third locality harboring *Lecanorchis kiusiana* Tuyama has been documented in Hiroshima Prefecture. The habitat at this site differed from that at the two previously reported localities in this prefecture.

ウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama は、ラン科の菌従属栄養植物で、関東以西の本州太平洋側、四国、九州に分布する（遊川 2016）。同属のムヨウラン *L. japonica* Blume やエンシュウムヨウラン *L. suginoana* (Tuyama) Seriz. に似ているが、全体の大きさや柱の形態、唇弁側裂片の形、周辺の鋸歯や中央部の毛状突起の形態などで区別される（Hashimoto 1990；芹沢 2005）。広島県内においてはこれまでに瀬戸内海沿岸部の2ヶ所の自生地が報告され、それぞれ約40～30花茎が確認されている（世羅ほか 2023；世羅 2024）。今回新たに生育が確認されたのは海岸線から約14 km 内陸に入った広島市安佐南区の山林内で、21花茎を確認した（図1）。

今回記録する自生地は、標高約70 mにある小さな谷状地形の場所であった。谷を形成する比較的急傾斜面で殆ど腐葉土がない場所や、谷の下部で土砂や腐葉土が堆積した緩やかな斜面だった。生育地の植生は、高木層にアベマキ *Quercus*

variabilis Blume が多く、他にアラカシ *Q. glauca* Thunb., コナラ *Q. serrata* Murray, ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky が出現し、亜高木～低木層には高木層の出現種のほかにサカキ *Cleyera japonica* Thunb., ヤブツバキ *Camellia japonica* L., アセビ *Pieris japonica* (Thunb.) D. Don ex G. Don が出現する常緑広葉樹と落葉広葉樹の混交林だった。なお、低木層や草本層を構成する植物はほとんどなかったが、これはニホンジカ *Cervus nippon* の食害によると思われる。一方これまでに記録された広島県内のウスキムヨウランの自生地は、緩やかな斜面中部に成立した常緑広葉樹林で、コバンモチ *Elaeocarpus japonicus* Siebold et Zucc. が多く、ツブラジイ、ヤマモモ *Myrica rubra* Siebold et Zucc.などを主体とする極相林的な林分だった。以上のように、広島県のウスキムヨウランは極相林的な常緑広葉樹林だけでなく、二次林的な常緑・落葉混交林にも生育することが分かった。



図1. 広島市に生育するウスキムヨウランの写真

A : 広島市における生育状況 (←は3個体を示す), B : 1個体の拡大, スケールバーは5 cm (A), 1 cm (B)

Figure 1. Photographs of *Lecanorchis kiusiana* Tuyama in Hiroshima City

A: Habitat with three individuals indicated by arrows. B: Close-up view of an individual plant. Scale bars: 5 cm in (A) and 1 cm in (B).

広島県以外で報告されたウスキムヨウラン生育地のほとんどはシイノキ（ツブラジイまたはスダジイ *C. sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba) が生える常緑広葉樹林の林床であり（中馬 1980；長谷川ほか 2018；Tuyama 1955），ウスキムヨウランがツブラジイと共生関係にある菌根菌に依存する特性があることが指摘されている（長谷川ほか 2018）。しかし一方で，コナラが優占する落葉広葉樹二次林でもわずかだが本種の自生が確認され，本種の自生地としては貴重であるとされている（福永ほか 2017）。

今回報告した新たな自生地は常緑広葉樹と落葉広葉樹が混生する二次林だが，その中には枯れたアカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc. の痕跡が多数あることから，以前はアカマツの二次林だったものが常緑広葉樹林へ遷移する途中の林分と言

えるかもしれない。数百メートル離れた場所にはツブラジイが優占する社叢が残っており，その社叢からウスキムヨウランが侵入した可能性もある。ただ，今のところその社叢では未確認である。

本調査は，国土交通省が実施された広島西部山系自然環境調査業務の調査結果を基に，広島市生物現況調査業務の一環として行ったものである。調査結果の利用を快諾いただいた国土交通省中国地方整備局広島西部山系砂防事務所調査課長様に感謝の意を表します。

証拠標本（広島市植物公園で保管）：ウスキムヨウラン（HIBG-28176）

引用文献

- 中馬千鶴 1980. 神宮宮域林の腐生植物 1 – ウスキムヨウランについて. 植物研究雑誌 **55**: 306–309.
- 福永裕一・末次健司・光田重幸 2017. ウスキムヨウラン (ラン科) を京都府に記録する. 分類 **17**: 167–171. <https://doi.org/10.18942/bunrui.01702-06>
- Hashimoto, T. 1990. A taxonomic review of the Japanese *Lecanorchis* (Orchidaceae). Ann. Tsukuba Bot. Gard. **9**: 1–40.
- 長谷川泰洋・橋本啓史・都築芽伊 2018. 愛知県豊田市におけるウスキムヨウランの新産地. 矢作川研究 **22**: 17–21.
- 世羅徹哉 2024. 広島県フロラ覚書 (11) ウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana*, ツクシゼリ *Angelica longiradiata* var. *longiradiata*, オクシモハギ *Lespedeza davidii*. 広島市植物公園紀要 **36**: 35–40.
- 世羅徹哉・藤富信之・大沼みお・末次健司 2023. ウスキムヨウラン (ラン科) を広島県に記録する. 植物地理・分類研究 **71**: 57–60. <https://doi.org/10.18942/chiribunrui.0711-07>
- 芹沢俊介 2005. 愛知県のムヨウラン類. 分類 **5**: 33–38. <https://doi.org/10.18942/bunrui.KJ00004649630>
- Tuyama, T. 1955. A new saprophytic orchid, *Lecanorchis kiusiana*. Journ. Jap. Bot. **30**: 181–187.
- 遊川知久 2015. ラン科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編). 改訂新版日本の野生植物 **1**. pp. 178–231. 平凡社, 東京.